

濃金 純利益が31%増

大垣西濃信用金庫が17日発表した2022年3月期決算は、不良債権処理額が増えたものの、業務効率化による経費削減や有価証券関係損益の改善により、純利益が前期比31・2%増の9億2600万円だった。本業の収益力を示す実質

業務純益は、経費削減効果や前期の有価証券売却損が大きかった反動で70・7%増の15億7千万円。債券関係損益を除いたコア業務純益も15・8%増の19億8300万円だった。期末貸出金残高は住宅ローンなど個人向けが堅調で

0・7%増の3541億1400万円。期末預金残高は手元資金確保などのニーズから0・4%増の7752億9600万円だった。

健全性の指標となる自己資本比率は0・05%上昇の13・18%。金融再生法ベースの不良債権比率は0・01%低下の3・95%だった。23年3月期予想は、新型コロナウイルスの影響や世界情勢の不透明感から未定とした。(宮本寛)